

TOPPAN FORMS

# 株主通信

第64期 第2四半期

2017年4月1日～2017年9月30日

トップメッセージ

## 新事業への挑戦と デジタルハイブリッドの 推進で、成長軌道へ 回帰します

特集

ITイノベーション事業

RFIDを活用した  
「選手団の手荷物輸送サービス」

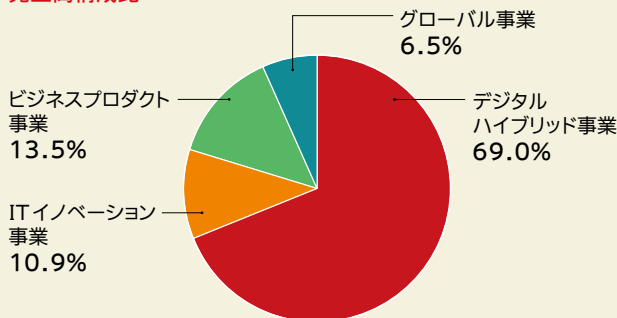
デジタルハイブリッド事業

金融機関のコミュニケーションツール改善を  
支援する新サービスを提供

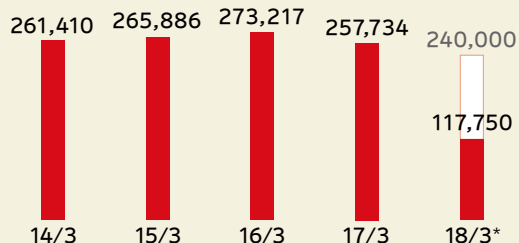
# 連結業績ハイライト 2017年4月1日～9月30日

\* 通期の業績は予想値

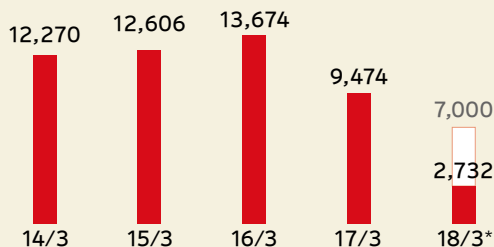
## 売上高構成比



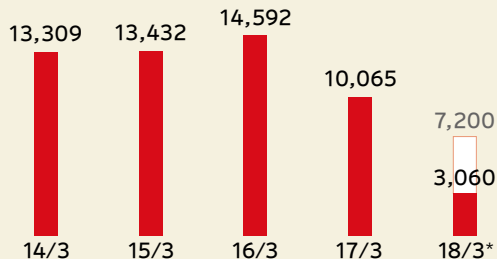
売上高 **117,750** 百万円 (前年同期比8.7%↓)  
(百万円)



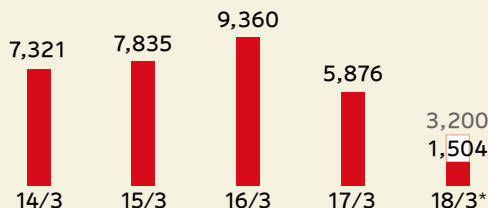
営業利益 **2,732** 百万円 (前年同期比46.6%↓)  
(百万円)



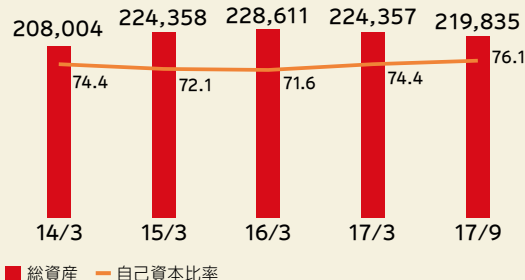
経常利益 **3,060** 百万円 (前年同期比44.5%↓)  
(百万円)



親会社株主に帰属する  
四半期(当期)純利益 **1,504** 百万円 (前年同期比56.2%↓)  
(百万円)



総資産 **219,835** 百万円 自己資本比率 **76.1** %  
(百万円/%)



### 「東海道五十三次」を 絵巻スタイルで商品化



江戸時代を代表する浮世絵師・歌川広重の「東海道五十三次」を古地図と併せて楽しむスタイルの絵巻商品を販売開始しました。

日本橋から京都までの名所を描いた55枚の浮世絵の下には、同時代に発行された古地図「東海木曾両道中懐宝図鑑」を掲載し、広重が浮世絵を描いた場所と目線を想像しながら鑑賞する楽しみを加えました。

外国人旅行者や江戸文化ファンをターゲットに、百貨店や博物館での販売を行います。

### 当社独自の銀塩インクで 鏡のような光沢を実現



スマートフォンカバーへの加飾プリント

当社が開発した銀塩インクが、株式会社グラフィッククリエイションさまが提供を開始した高光沢加飾プリントサービスに採用されました。

この銀塩インクは、当社が独自の技術で開発したものであり、従来のインクでは不可能だった鏡のような光沢感や細かいデザイン表現をインクジェット印刷で実現できるため、雑貨、玩具、家電、ポスター、看板などさまざまな製品に高級感や華やかさを演出した意匠性の高いプリントが可能です。

### ヤード内の自動車 位置特定のための ICタグを開発



各駐車スペースの位置情報を  
ICタグに記録して設置

これまで自動車メーカーでは、車両を一時保管している広大なヤードから目的の車両を探し出すのに多大な時間と労力を要していました。

この問題を解決するべく、当社はヤード内の車両位置を特定するためにアスファルト上に設置するICタグを開発し、その高い利便性が評価され、トヨタ自動車株式会社流通情報改善部さまに採用されました。当社のアンテナ設計技術を駆使し、車両が密集していても読み取り可能な通信性能を搭載するとともに、雨水や車両の荷重に対する高い耐久性を実現しています。



## セグメント別売上高

### デジタルハイブリッド事業

**812** 億円  
(前年同期比 12.2%↓)

### ITイノベーション事業

**128** 億円  
(前年同期比 2.7%↓)

### ビジネスプロダクト事業

**159** 億円  
(前年同期比 10.2%↑)

### グローバル事業

**76** 億円  
(前年同期比 12.9%↓)

## 新事業への挑戦とデジタルハイ

株主の皆さまには、平素より格別のご支援ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。第64期第2四半期連結累計期間(2017年4月1日～9月30日)の事業内容と今後の方針についてご報告申し上げます。

### 当第2四半期の経営環境

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、企業収益や個人消費に改善の動きが見られるなど、緩やかな回復基調が続きました。一方、緊迫する北朝鮮情勢や米国の政策動向、欧州の政治リスクなどの懸念材料が重なり、海外経済は引き続き不透明な状況で推移しました。

当社グループを取り巻く環境は、企業の経費削減の徹底や競争の激化による受注価格の下落に加え、IT化・ネットワーク化の進展による紙媒体の需要減少、人件費の上昇などにより、依然として厳しい状況が続いています。また標的型攻撃などのサイバー攻撃による脅威が増大する中で、情報セキュリティ対策の重要性がより一層高まりました。

### 当第2四半期の取り組みと業績

そのような状況の中、当社グループは従来型のソリューションと最先端のデジタル技術を掛け合わせて新たな価値を提供する「デジタルハイブリッド」の推進に注力しました。期初には事業ポートフォリオを再構築することで戦略を明確化し、経営資源配分の最適化を図りました。また中長期的な成長ビジョンの実現に向けてIT分野への投資に取り組むとともに、積極的な事業投資の検討を進めました。

# ブリッドの推進で、成長軌道へ回帰します

製造業、流通業、官公庁・自治体などの市場開拓を行うとともに、金融機関を中心として、法改正に伴うビジネスプロセスアウトソーシング（BPO）需要の取り込みなどを進めましたが、香港市場におけるコンピューター関連商品の需要減少や国内におけるビジネスフォームの減収、一部得意先における大型案件の縮小などが大きく影響したことにより、減収減益となりました。

## 新事業への挑戦とデジタルハイブリッド事業の深耕

当第2四半期連結累計期間の業績は厳しい結果となりましたが、いち早く成長軌道へと回帰すべく、成長戦略の推進と新事業の創出にスピード感を持って取り組んでいきます。とりわけ、市場構造の変化が激しい現在においては、市場の動向を見据えた新事業・新サービスの創出・育成が喫緊の課題です。当社が長年培ってきた情報の運用・加工技術を活用できる分野に加え、従来のビジネス領域を超えた分野への進出も視野に入れながら、新たなビジネスを積極的に開拓していきます。

同時に当社の主力事業であるデジタルハイブリッド事業の深耕にも注力します。「紙」と「電子」の両面からお客さまの業務効率化を総合的にサポートする「EFMS」の本格展開を進めるとともに、他社との差別化の強化やマイナンバー収集、iDeCo（個人型確定拠出年金）関連業務など法制度改正に伴う需要の獲得による高付加価値BPOの受託を拡大し、市場における独自の地位を活用した成長を目指します。

⇒「EFMS」について詳しくは当社Webサイトをご参照ください。  
<http://www.toppa-f.co.jp/business/digitalhybrid/>

## 革新を生み出す企業風土を目指して

これらの取り組みを加速させるには、従業員一人ひとりが能力を最大限に発揮し、仕事の質を高めることが重要です。業務効率化や意識改革を行うとともに挑戦を促す制度改革や支援体制の充実を図り、革新を生み出す企業風土の醸成を進めます。

引き続き、競争力強化のための事業投資に取り組むとともに、製造拠点の集約やグループ会社の再編、働き方改革を含めた構造改革を推し進め、企業価値のさらなる向上を図っていきます。

依然として大変厳しい経営環境ではありますが、「デジタルハイブリッドのトッパンフォームズ」としてこの市場構造の変化をチャンスと捉え果敢に挑戦を続けることで、成長軌道への回帰を目指してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年12月  
代表取締役社長

坂田 甲一

# RFIDを活用した 「選手団の手荷物輸送サービス」



**TOPPAN FORMS** ×  **ヤマト運輸**

当社は「2017 冬季アジア札幌大会」において、ヤマト運輸さまが提供した「選手団の手荷物輸送サービス」にRFIDシステムを提供しました。先進的で優れた自動認識の技術として高く評価され、ヤマト運輸さまと共同申請した第19回自動認識システム大賞で「大賞」に輝いた本サービスの概要についてご紹介します。



## 選手帰国時まで「温かいおもてなし」を

「2017 冬季アジア札幌大会」は、アジア圏のウインタースポーツ国際大会として、2017年2月19日から8日間、計32の国や地域から約2,000名の選手・役員が参加し開催されました。

組織委員会では大会コンセプトのひとつである「温かいおもてなし」の一環として、入国から帰国までアスリートファーストを実現することを目指していましたが、選手帰国時に予想される新千歳空港の混雑が大きな課題のひとつでした。

新千歳空港は通常時でも混雑することの多い空港です。その上ウインタースポーツは競技用の道具などの手荷物が非常に多く、移動や手荷物検査に時間がかかるため、通常通りの出国手続では混雑によるフライトの遅延を避けることは困難でした。

## 選手と手荷物の導線を分ける

その解決法として提供されたのがヤマト運輸の「手荷物輸送サービス」でした。選手は事前に手荷物をヤマト運輸に預け、出国当日は手ぶらで空港へ向かい飛行機に乗り込みます。一方、手荷物は選手とは別に運ばれ、直接航空会社に引き渡されます。選手は帰国後の空港ではじめて手荷物を手にすることになります。このように選手と手荷物の導線を分けることで、移動や手荷物検査に要する時間の短縮を目指しました。

## 選手と手荷物の流れ



※ 本サービスは現在ヤマトホールディングス株式会社が特許出願中です。

## RFIDを活用したスムーズな出国

本サービスにおいて、スムーズな出国を技術面からサポートしたのが当社のRFIDシステムです。ヤマト運輸が手荷物を預かる際、選手が大会期間中常に身に付ける資格認定カードと手荷物の両方にICタグを貼り付けて、選手と手荷物の管理を行います。そして出国当日の空港では、ICタグを読み取ることによって選手と手荷物両方の空港到着を確認。到着が確認できた選手の手荷物を順に航空会社に引き渡します。

ICタグの一括読み取り機能を活用すれば、トラックで運び込まれた大量の荷物の中から各選手の手荷物を瞬時に特定することが可能です。一方選手は、資格認定カードを身に付けて読み取り機の前を通過するだけで、到着の確認が済みます。

## フライト遅延ゼロを実現

選手と手荷物の導線を分け、RFIDを活用した効率的な運用を行ったことにより、空港での混雑や混乱はなく、大会期間中、選手団の手荷物によるフライト遅延をゼロに抑えることができました。選手からは「画期的であり、やはり日本のサービスは素晴らしい」などの声を頂き、アスリートファーストの実現に当社の技術が一翼を担うことができたことを大変光栄に思っています。

今後はさらに汎用性を高め、団体旅行への展開やその他の国際スポーツ大会での活用を構想しています。

### RFID (Radio Frequency Identification)

ICタグやICラベルに記録された情報を電波などを用いて非接触で読み取る技術です。当社は、さまざまな用途のICタグ・ラベルを次々に開発、長年にわたり提供してきました。



# 金融機関のコミュニケーション ツール改善を支援する 新サービスを提供



当社は、金融機関が顧客に提供している商品パンフレットや申込書類、Webサイトなど、あらゆるコミュニケーションツールの診断・分析から改善・効果検証までを行う新サービス「FDフィット診断」の提供を2017年5月から開始しました。

## 4割以上が金融商品を購入・申し込みする際に誤解した経験あり

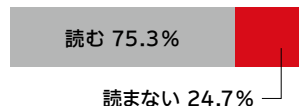
保険や投資信託など、金融商品を購入・申し込みする際、申込用紙が複雑で記入ミスをしてしまったことや、説明書が分かりにくいいためよく理解できなかったという経験はありませんか。

金融商品を購入・申し込みしたことのある20歳以上の男女1,200名を対象に当社が行ったアンケート調査では、金融商品を購入・申し込みする際「誤解したことがある」と回答した人が4割を超えました。また、購入時に読むべき重要事項説明書や目論見書は「読み飛ばす・読んだことがない」人が2割以上いるなど、金融機関の提供する情報に分かりづらさや読みづらさを感じている人が多いことが分かりました。

Q. 金融商品を購入・申し込みする際、商品内容に関して誤解はありませんでしたか。



Q. 金融商品を購入・申し込みする際、確認すべき重要事項説明書などの書類を読みますか。

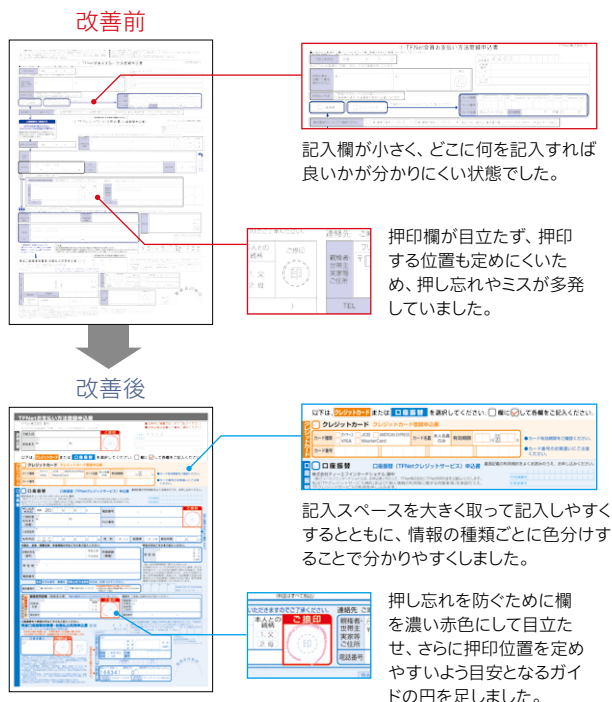




## さまざまなノウハウを活用した コミュニケーションツール改善サービス

金融機関が抱えるコミュニケーションツールに関する課題を解決するために、新サービス「FDフィット診断」の提供を開始しました。当社が帳票運用業務の中で長年培ってきたツール設計や制作のノウハウを活用し、媒体を問わず、情報を分かりやすく伝えるのに最適なデザインを提案します。たとえば、申込書の記入欄について、ユニバーサルデザインに基づいて記入しやすいフォーマットを設計したり、記入者が申込書を読む視線の動きを調査・分析することで分かりやすい申込書への改善を行います。また、日ごろから金融関連の各種相談に対応しているファイナンシャルプランナーの視点を取り入れ、誤認されやすい表現や分かりにくい構成の改善、必要な基礎情報の補強なども行います。

改善と検証を繰り返し行うことで、問い合わせや記入不備の減少、不備への対応コスト削減などを実現します。



## 金融機関に求められる顧客本位の業務運営

新サービス「FDフィット診断」のFDは、「フィデューシャリー・デューティー（顧客本位の業務運営）」の略です。日本政府は「貯蓄から投資へ」というスローガンを掲げ、国民に投資を促しています。国民が安心して投資を行えるよう、金融庁が金融機関に求めているのがフィデューシャリー・デューティー、つまり、真に顧客の利益を考えた業務の運営なのです。

2017年3月に金融庁が公表した「顧客本位の業務運営に関する原則」には、顧客への分かりやすい情報提供や、顧客一人ひとりに合わせたサービスの提供をすべきであるとされています。

当社は新たなサービスの提供を通じて、コミュニケーションツールの改善という視点から、その実現をサポートします。

# 連結財務諸表（要旨）

## 連結貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2017年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	124,544	121,850
固定資産	99,812	97,984
有形固定資産	68,961	68,096
無形固定資産	5,762	5,539
投資その他の資産	25,088	24,347
<b>資産合計</b>	<b>224,357</b>	<b>219,835</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	49,351	45,028
固定負債	5,784	5,258
<b>負債合計</b>	<b>55,136</b>	<b>50,286</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	164,816	164,933
資本金	11,750	11,750
資本剰余金	9,315	9,315
利益剰余金	148,666	148,784
自己株式	△4,916	△4,916
その他の包括利益累計額	2,144	2,434
非支配株主持分	2,260	2,180
<b>純資産合計</b>	<b>169,220</b>	<b>169,548</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>224,357</b>	<b>219,835</b>

## 連結損益計算書

（単位：百万円）

科 目	前第2四半期 連結累計期間 (2016年4月1日～ 2016年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (2017年4月1日～ 2017年9月30日)
<b>売上高</b>	<b>129,021</b>	<b>117,750</b>
売上原価	101,714	93,140
売上総利益	27,307	24,609
販売費及び一般管理費	22,187	21,877
<b>営業利益</b>	<b>5,119</b>	<b>2,732</b>
営業外収益	483	464
営業外費用	86	136
<b>経常利益</b>	<b>5,515</b>	<b>3,060</b>
特別利益	85	57
特別損失	74	90
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	<b>5,526</b>	<b>3,027</b>
法人税等合計	2,028	1,472
非支配株主に帰属する四半期純利益	61	50
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,436	1,504

## 連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科 目	前第2四半期 連結累計期間 (2016年4月1日～ 2016年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (2017年4月1日～ 2017年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,346	6,327
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,123	△2,360
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,394	△1,434
現金及び現金同等物の期首残高	59,494	58,919
現金及び現金同等物の 四半期末残高	57,951	61,354

# 会社情報 / 株式情報

## 会社概要 (2017年9月30日現在)

商号	トッパン・フォームズ株式会社
英文名	TOPPAN FORMS CO., LTD.
本店所在地	東京都港区東新橋一丁目7番3号
電話	(03) 6253-6000 (ダイヤルイン案内)
設立	昭和30年5月2日
資本金	117億5,000万円
発行済株式総数	115,000,000株
従業員数(単体)	1,944名
従業員数(連結)	10,683名

## 役員 (2017年9月30日現在)

代表取締役会長	櫻井 醜
代表取締役社長	坂田 甲一
取締役副社長	亀山 明
専務取締役	浜田 光之
常務取締役	岡田 康宏
取締役	足立 直樹
取締役(社外)	ルディー 和子
取締役(社外)	天野 秀樹
取締役	福島 啓太郎
取締役	添田 秀樹
常勤監査役	堀 喬一
監査役(社外)	木下 徳明
監査役	佐久間 國雄
監査役(社外)	尾畑 亜紀子

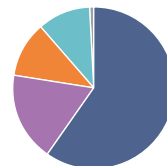
## 株主(上位10名)・株式分布状況 (2017年9月30日現在)

株主名	当社への出資状況	
	株式数 (千株)	持株比率 (%)
凸版印刷株式会社	67,419	60.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	5,294	4.77
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	3,731	3.36
トッパンフォームズグループ従業員持株会	2,078	1.87
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG / JASDEC / HENDERSON HHF SICAV	2,071	1.87
GOVERNMENT OF NORWAY	1,330	1.20
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	1,272	1.15
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	1,196	1.08
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE IEDU UCITS CLIENTS NON LENDING 15 PCT TREATY ACCOUNT	1,188	1.07
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	887	0.80

注1. 当社は自己株式4,003千株を保有しておりますが、上記の表から除外しております。  
注2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

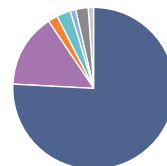
## 所有者別株式分布状況

■ その他法人	68,699千株 (59.7%)
■ 外国法人など	20,486千株 (17.8%)
■ 金融機関	12,813千株 (11.1%)
■ 個人・その他	12,350千株 (10.7%)
■ 金融商品取引業者	650千株 (0.6%)



## 所有株数別株式分布状況

■ 100万株以上	87,263千株 (75.9%)
■ 10万株以上	17,185千株 (14.9%)
■ 5万株以上	1,983千株 (1.7%)
■ 1万株以上	3,234千株 (2.8%)
■ 5千株以上	1,356千株 (1.2%)
■ 1千株以上	2,862千株 (2.5%)
■ 1千株未満	1,114千株 (1.0%)



# 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
株主確定基準日	定時株主総会・期末配当 3月31日 中間配当を行う場合 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
公告方法	電子公告により、当社ホームページ ( <a href="http://www.toppan-f.co.jp/">http://www.toppan-f.co.jp/</a> )に掲載いたします。 なお、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人・ 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先 <sup>(注)</sup>	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電 話：0120-232-711 (通話料無料) 郵送先：〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
1単元の株式の数	100株
上場金融商品取引所	東京証券取引所
証券コード	7862

(注) 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関の事務拠点の移転に伴い2017年8月14日付にて上記のとおり変更しております。

## ご注意

1. 株主さまの住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則として口座を開設されている証券会社などが受付窓口となります。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行株式会社)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。郵便物などの発送・返戻、未受領の配当金などにつきましては三菱UFJ信託銀行株式会社に承ります。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社に受付いたします。
3. 特別口座に記録された株式を市場で売却する場合は、特別口座から直接売却することができませんので、証券会社などの口座に振り替える必要がございます。



## Webサイトでも情報を開示しています

当社コーポレートサイト「IR情報」では、決算短信や決算説明会資料の掲載をはじめ、経営方針や経営戦略、各種お知らせなどを幅広く発信しています。財務情報や事業内容などについての詳細はWebサイトをご参照ください。

**URL** <http://www.toppan-f.co.jp/ir/>



## トッパン・フォームズ株式会社

本店 〒105-8311 東京都港区東新橋一丁目7番3号  
<http://www.toppan-f.co.jp/>

みんなの文字®

©TOPPANFORMS 2017 1  
COM17016-1711N-076